

東北の活性化を応援する「おいしい」取り組み



東北が誇るブランドマグロを 広く全国に届けたい

JALグループは、日本全国に展開する自社のネットワークを活用し、地域活性化を後押しするさまざまな取り組みを進めています。中でも、地域を代表する一次産業が抱える課題解決に力を入れ、労働力確保や物流構築などの支援を各地で継続してきました。今回は東北エリアにおける事例をご紹介します。

昨年10月、宮城県塩竈市に水揚げされるメバチマグロ「三陸塩竈ひがしもの」が、仙台空港から福岡空港へ向けてJALグループの飛行機で飛び立ちました。「三陸塩竈ひがしもの」を名乗るには、冷凍保存を施さないなどの条件を満たす必要があるため、これまでは県内や首都圏を中心に流通していましたが、「鮮度」「色つや」「脂のり」「うまみ」を兼ね備えた希少なブランドマグロのおいしさを、全国に広く伝えたいという塩釜市魚市場関係者の思いに共感、このたびの航空輸送が実現したのです。福岡まで計4回直送されたマグロの総重量はおよそ57kgにのびりました。

「JALふるさとアンバサダー」として東北の活性化に携わる渡邊恭子は、塩釜市魚市場での

今回のテーマに該当する目標



1.2.メバチマグロの販売開始式にて。3.福岡空港で提供された料理一例。4.「廻鮮寿司 塩釜港」の森雄さんから「三陸塩竈ひがしもの」を託されたJALふるさとアンバサダーの渡邊。5.山形が誇るサクラambo。6.選果作業に従事するJALグループ社員。7.8.バンコクへサクラambo 7kgを試験的に輸出。

地域のパートナーと共に人財育成に取り組んでいます

JAL東北支社では、2024年1月と2月、宮城県仙台市に本店を置く七十七銀行で働く約800名の方を対象に、現役の客室乗務員による教育「おもてなしの心の実践」を実施し、対面とオンラインによるセミナーを聴講いただきました。



メバチマグロの販売開始式に参加。「他の地域の方にも『三陸塩竈ひがしもの』を味わっていただき、産地を訪れるきっかけになれば嬉しいです」と語ります。三陸の海産物のおいしさを知っていただくため、本プロジェクトは今年も継続予定です。

山形のサクラamboを世界へ！ まずはバンコクで実証実験

山形県の名産といえば、つやつやと赤い輝きを放つサクラambo。JAL東北支社は、このサクラamboを起点として、人流・商流・物流の創出による地域活性化に取り組んでいます。昨年6月10日から30日までの21日間、JALグループ社員が東根市でのサクラambo選果作業に加わり、のべ87人が参加しました。また、JAL全農山形と連携し、山形県産サクラamboをタイ・バンコクにある日本生鮮卸売市場「トロー日本市場」へ輸出する実証実験を実施し、山形県産品の認知拡大や新たな海外商流の可能性を探りました。さらに、今年2月には、JAL全農山形とJAL東北支社、JAL Agriportが「地域農業の活性化と地域産品の価値向上に向けた連携協定」を締結しました。農業労働力支援事業の継続参加や国内外への商物流創出、農畜産品の魅力発信を中心に行っていくことで、協業をより一層加速します。

JALグループはこれからも、地域の活性化とサステナブルな発展のために、人流・商流・物流支援に貢献してまいります。

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

